



くにさき学

いじん げいじゆつ
② 偉人・芸術

くにさき いじん
1. 国東の偉人

くにさき げいじゆつさい
2. 国東の芸術祭

くにさき げいじゆつか
3. 国東の芸術家



国東の偉人

「偉人」という言葉から、あなたはどんな人を思い浮かべますか？ そう、「偉人」と呼ばれるのは、ただ「頭が良く、世の中で成功した立派な人」ではありません。偉人とは、自分が掲げた理想の実現をめざし、困難にもくじけず、人々の幸福や社会・地域の発展のために、努力し続けた人々です。様々な分野で活躍した郷土国東の偉人の考え方や生き方、その苦難や努力の跡をたどってみることで、きっとあなたに「生きるためのたくさんのヒント」を与えてくれることでしょう。未来に向けて、新しい歩みを進めていくために、ぜひ活用してください。



ここで紹介した33人の偉人の生涯については、平成25年(2013)に国東市教育委員会が発行した『ふるさと国東の偉人伝』に詳しく書かれているよ。また、これ以外にどんな偉人がいるか、QRコードからアクセスして調べてみよう！



おおいたけんりつせんてつしりょうかん 大分県立先哲史料館

⑤ 高潔の衆議院議長



もとだ はじめ
元田 肇

あんせい ねん
安政5年(1858)
～昭和13年(1938)
くにさきまち う
国東町生まれ

⑥ 移民事業の元祖



わたなべ かんじゅうろう
渡辺 勘十郎

げんじ がんねん
元治元年(1864)
～大正15年(1926)
むさしまち うさし う
武蔵町(宇佐市生まれ)

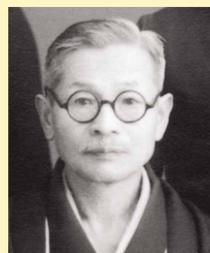
⑨ 大分県の盲教育の先駆者



もり きよかつ
森 清克

めいじ ねん
明治11年(1878)
～昭和21年(1946)
くにさきまち う
国東町生まれ

⑩ 郷土史研究の大先達



このの きよまさ
河野 清実

めいじ ねん
明治11年(1878)
～昭和27年(1952)
あきまち う
安岐町生まれ

⑪ 国会議事堂の設計者



よしたけ とうり
吉武 東里

めいじ ねん
明治19年(1886)
～昭和20年(1945)
くにさきまち う
国東町生まれ

⑫ 激動の日本を支えた外務大臣



しげみつ まもる
重光 葵

めいじ ねん
明治20年(1887)
～昭和32年(1957)
あきまち ぶんごおのし う
安岐町(豊後大野市生まれ)

⑬ 初志を貫く数学者



すえつな けんいち
末綱 恕一

めいじ ねん
明治31年(1898)
～昭和45年(1970)
むさしまち う
武蔵町生まれ

⑭ 戦後日本の産業を支えた化学者



ともなり つくも
友成 九十九

めいじ ねん
明治35年(1902)
～昭和32年(1957)
くにさきまち う
国東町生まれ

⑮ 鎌倉時代の名刀匠

ゆきひら
行平

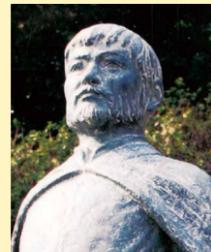
せいぼつねんふめい
生没年不明
くにさきまち ぶんごたかし う
国見町(豊後高田市生まれ)

⑯ 和算の研究者

こはら さんぺい
古原 三平

あんせい ねん
安永6年(1777)～天保12年(1841)
あきまち う
安岐町生まれ

① 信念に生きた殉教者



ペトロ 岐部

てんしょう ねん
天正15年(1587)
～寛永16年(1639)
くにみまち う
国見町生まれ

② 郷土の教育と学問の祖

あやべ みちひろ
綾部 道弘

かんえい ねん
寛永12年(1635)～元禄13年(1700)
むさしまち う
武蔵町生まれ

③ 天地の真理を探求した哲学者



みうら ばいえん
三浦 梅園

きょうほう ねん
享保8年(1723)
～寛政元年(1789)
あきまち う
安岐町生まれ

④ 燈守に生涯を捧げた僧



せいぎょ
清虚

あんえい ねん
安永6年(1777)
～嘉永3年(1850)
くにみまち う
国見町生まれ

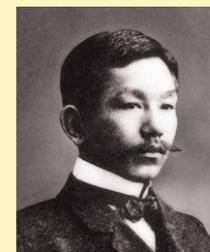
⑦ 郷土の女性教育の先駆者



ごと かね
後藤 ヨネ

けいおつ ねん
慶応4年(1868)
～昭和37年(1962)
くにさきまち う
国東町生まれ

⑧ 心臓拍動のしくみを発見した病理学者



たわら すなお
田原 淳

めいじ ねん
明治6年(1873)
～昭和27年(1952)
あきまち う
安岐町生まれ

①-1

①-2

①-3

②-1

②-2

②-3

③-1

③-2

③-3

③-4

④-1

④-2

⑤-1

⑤-2

⑤-3

⑤-4

⑥-1

⑥-2

①-1

①-2

①-3

②-1

②-2

②-3

③-1

③-2

③-3

③-4

④-1

④-2

⑤-1

⑤-2

⑤-3

⑥-1

⑥-2

①7 医学・儒学の探求者



甲原 玄寿

寛政4年(1792)
~明治8年(1875)
武蔵町生まれ

①8 将軍と天皇に仕えた侍医

渡辺 春貞

生年不明
~明治15年(1882)
安岐町生まれ

①9 地域農業の発展に尽くした篤農家

吉武 幸四郎

天保6年(1835)
~大正6年(1917)
国見町生まれ

②0 治水事業の功績者

秦 文蔵

天保9年(1838)
~明治44年(1911)
国東町生まれ

②1 地域医療に尽くした仁医

高橋 義信

安政2年(1855)
~昭和8年(1933)
武蔵町生まれ

②2 大正天皇の侍医



池辺 棟三郎

安政5年(1858)
~大正15年(1926)
安岐町生まれ

②3 国東の酒を全国一にした醸造家



萱島 米三郎

慶応2年(1866)
~昭和16年(1941)
国東町生まれ

②4 地元に公会堂を提供した皇族の侍医



渡辺 省吾

明治2年(1869)
~昭和18年(1943)
安岐町生まれ

②5 大分県の初代美術協会会長



松本 古村

明治6年(1873)
~昭和21年(1946)
国東町生まれ

②6 ミカン栽培の先覚者



西山 錨

明治25年(1892)
~昭和42年(1967)
安岐町生まれ

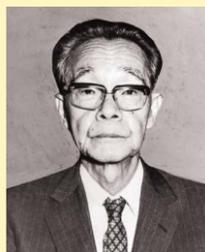
②7 努力と執念の歌人



葉山 耕三郎

明治28年(1895)
~昭和45年(1970)
国見町生まれ

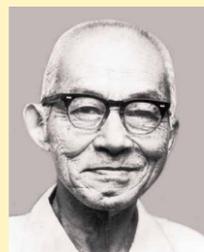
②8 脳研究の第一人者



小川 鼎三

明治34年(1901)
~昭和59年(1984)
国東町(杵築市生まれ)

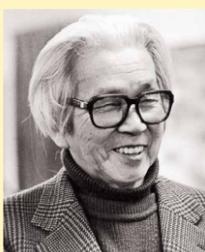
②9 孤高の先達詩人



滝口 武士

明治37年(1904)
~昭和57年(1982)
武蔵町生まれ

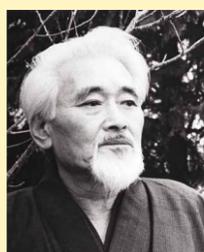
③0 「自分の世界」を追求した独創の画家



江藤 哲

明治42年(1909)
~平成3年(1991)
国見町生まれ

③1 「国東」を詠み続けた歌人



山本 保

大正元年(1912)
~平成8年(1996)
国東町(山口県生まれ)

③2 ふるさとの景色を造形した陶芸家



河合 誓徳

昭和2年(1927)
~平成22年(2010)
国見町生まれ

③3 国東最後の盲僧



高木 清玄

昭和6年(1931)
~平成8年(1996)
国東町(武蔵町生まれ)

※1 殉教：信仰する宗教のために自分の命をささげること。

※2 燈守：夜、船が安全に通れるよう燈を守る人。明治以降は「灯台守」と呼ぶ。

※3 高潔：心が気高く、清らかなようす。

※4 元祖：ある物事を始めた最初の人。

※5 先駆者：ある物事を他の人より先に取り組んだ人。

※6 先達：先にその分野で業績をあげ、後に続く者を導く人。

※7 刀匠：刀剣を作る人。刀鍛冶・刀工と同じ。

※8 和算：中国から伝わった古代算法を基に日本で発達した数学。江戸時代に関孝和たちによって大成した。明治以降、西洋数学を「洋算」と呼んだのに対していう。

※9 儒学：中国の孔子の教えに基づく、政治・道徳についての学問。儒教と同じ。

※10 侍医：天皇・皇族の診療をする医師。江戸時代には、将軍の診療をする医師もいる。

※11 篤農家：熱心に農業に取り組み、その研究に励む人。

※12 治水：水害を防いだり、水路をととのえたり、水の便をよくしたりすること。

※13 先覚者：ふつうの人よりも進んだ考えを持って、知識や学問の道を開いた人。

※14 第一人者：その社会や分野でいちばんすぐれた力を持っている人。

※15 孤高：ひとり超然として高い理想と志を保つこと。

※16 盲僧：中国地方の一部と九州に多くいた盲目の天台宗のお坊さん。年に数回、琵琶を弾きながら家々を訪れ、荒神様(屋敷や竈の神)を祀るためのお経をあげたり、正月にはお札を配ったりした。

国東の芸術祭

国東半島の伝統や地域資源と現代アートをひとつにして、観光や地域活性化に結びつけるための「アートプロジェクト」が平成 23 (2011) 年に開始、平成 26 (2014) 年には「国東半島芸術祭」が開催されました。千灯、岐部、成仏などに設置された作品は、現在でも見ることができます。平成 27 (2015) 年からは、既存の作品を活用した「くにさきアートフェスタ」を開催し、令和 2・3 (2020・2021) 年にも新たなアート作品を設置しています。

平成 26 (2014) 年に開催された「国東半島芸術祭」の来場者数は、50 日間で 60,028 人にもなったんだ！すごい賑わいだね。



国東半島の現代アート地図



くにさきはんとう げんだい 国東半島の現代アート

147 しまぶく みちひろ 島袋 道浩

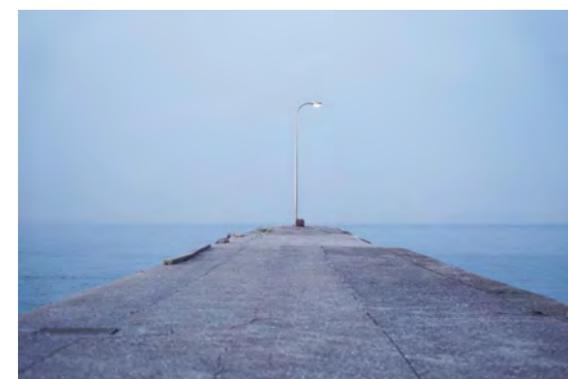
昭和 44 (1969) 年、神戸市生まれの美術家。1990 年代初めから国内外を旅し、そこに生きる人々の生活や新しいコミュニケーションのあり方に関するパフォーマンスや、インスタレーション作品などを制作しています。

現地へ行って、作品を体感してみよう！



1 光る道 - 階段の無い参道

山頂まで続く階段のない参道に、一直線の白い手すりを設置。夜間には手すりが点灯し、一筋の光を灯します。



4 息吹

埠頭に立つ外灯が、日没をむかえると呼吸をするように明滅を繰り返す作品です。

撮影:島袋道浩



1 首飾り-石を持って山に登る

世界中から集められた石が環状に並んでいます。ここに来る人が持ち寄った石を置き積み重ねることで、育っていく作品です。

撮影:島袋道浩



7 マノセ

干潮になると島にわたる道が現れます。堤防には、この場所と深く関わるための3つのメッセージが設置されています。

撮影:島袋道浩



芸術祭などのアートプロジェクトで作られた作品は屋外型。国東を訪れる国内・海外からの観光客の人たちに、今でも鑑賞されているんだよ！

- ①-1
- ①-2
- ①-3
- ②-1
- ②-2
- ②-3
- ③-1
- ③-2
- ③-3
- ③-4
- ④-1
- ④-2
- ⑤-1
- ⑤-2
- ⑤-3
- ⑤-4
- ⑥-1
- ⑥-2



② レイチェル・ホワイトリード
Kunisaki House

1963 年生まれ、イギリスの彫刻家です。この作品は、神棚と仏壇が並んだ座敷などを備える空き家の内部をコンクリートで型取り作られました。かつて人が住んでいた気配までも感じられます。

撮影:久保貴史



「Kunisaki House」という作品では、神棚と仏壇が並んでいる様子が見られるけれど、みんなの家ではどうかな？ 作者は、どうして神棚と仏壇が並んでいる様子を不思議に思ったんだろう？



⑤ 川俣 正
説教壇

昭和 28 (1953) 年生まれの芸術家、造形作家です。ペトロ岐部の数奇な生涯に感銘を受けた川俣正が、教会の裏の丘に木道と人が語るための場として制作した作品です。

撮影:久保貴史 © 国東半島芸術祭実行委員会



③ 宮島 達男
Hundred Life Houses

昭和 32 (1957) 年生まれの現代美術家です。日本の石造物・磨崖仏の7割が大分、とくに国東半島に集中していることから、現代の磨崖仏ともいえる作品を地域住民たちと一緒に作り上げました。

撮影:久保貴史 © 国東半島芸術祭実行委員会



⑥ アントニー・ゴームリー
ANOTHER TIME XX

1950 年生まれのイギリスの彫刻家です。国東半島の精神や哲学を考えるうえで重要な場所・千燈岳の山頂近くに、自分をかたどった鉄製の人物像を設置しました。雨風にさらされ、日々変化し続けています。

撮影:久保貴史 © 国東半島芸術祭実行委員会



国東半島芸術祭では、国東市以外にも作品が設置されたんだよ。身近にあるアート作品を自分の目で見て、肌で感じてみよう！
どんな感想を持つかな？



⑧ 勅使川原 三郎
月の木・光の水滴

撮影:久保貴史 © 国東半島芸術祭実行委員会



⑨ チームラボ

花と人、コントロールできないけれども、共に生きる Kunisaki Peninsula

撮影:久保貴史 © 国東半島芸術祭実行委員会



撮影:久保貴史 © 国東半島芸術祭実行委員会



- A) オノ・ヨーコ
見えないベンチ・念願の木
- B) 鴻池 朋子 One Wild Day
- C) チェ・ジョンファ 色々色
- D) 澁川テクニク
国東半島のラクダ
- E) 木村 崇人 太陽と坐る

撮影:久保貴史

⑩ 長崎鼻アートプロジェクト

くにさきアートフェスタ

国東半島芸術祭などで設置された作品を活用するため、平成 27 (2015) 年から毎年秋に「くにさきアートフェスタ」が開催されていたよ。



くにさきりっちカレー祭り



バスツアー



ペトロの森花使いライブ

国東の芸術家

国東には、土地や人に惚れ込み移住する芸術家が大勢います。豊かな自然や国東独自の文化が受け継がれているという魅力はもちろんのこと、創作活動を受け入れてくれる周りのあたたかさや、住民たちの人柄に心惹かれるようです。見慣れた景色や習慣にも、私たちが見逃している魅力があるのかもしれません。



国東のアーティスト情報を右のQRコードにアクセスして調べてみよう！
どんな人が活動しているかな？

国東出身だったり、他の土地から移り住んだりした芸術家たちがたくさんいるよ。実際の作品を見てみよう！



国見アートの会

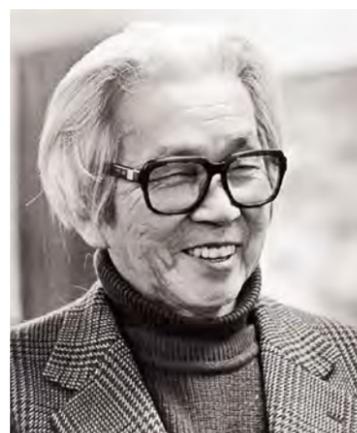


国見作家手帖

芸術家には、それぞれいろんな創作や生活のスタイルがあるんだね。

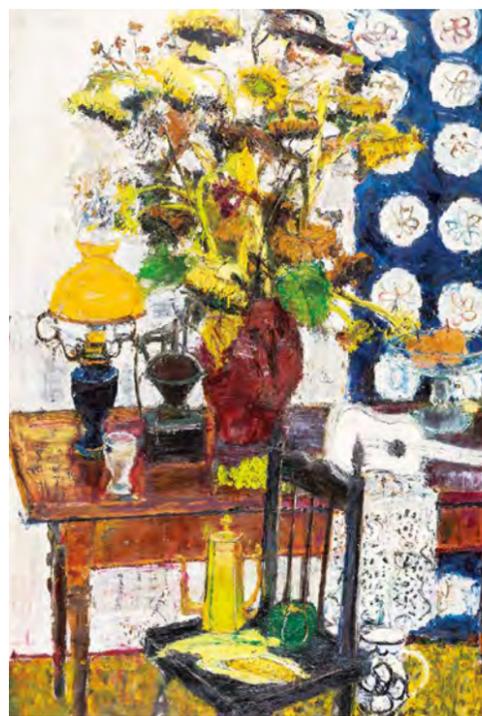


国東を代表する芸術家

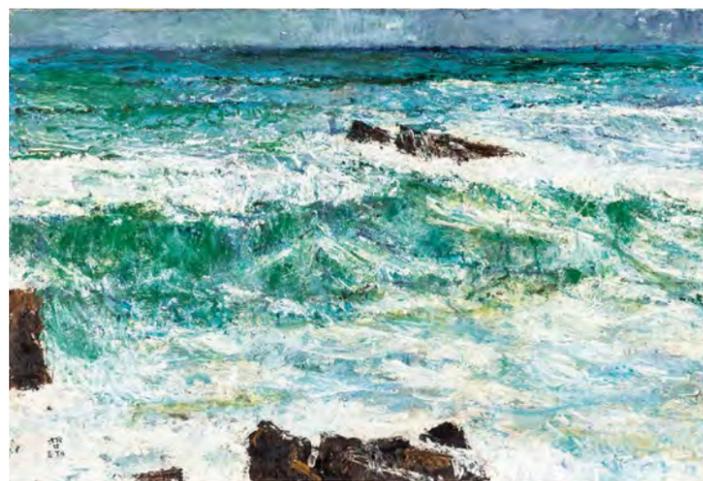


江藤 哲 明治 42 (1909) 年～平成 3 (1991) 年

現在の国見町竹田津出身の画家。小学 5 年で図画教師に出会い、絵を描くことが好きになったといいます。昼は公務員、夜は画家という生活を続け、生涯で油彩画 10,000 点、デッサン 7,000 点の作品を制作しました。



「ひまわり」



「海」

市内芸術家の活動拠点「アストくにさき」



くにさき総合文化センター アストくにさき



ギャラリー

「アストくにさき」には、演劇や古典芸能が上演される大きなホールのほかに、小さなホールやギャラリーもあるよ。



河合 誓徳 昭和 2 (1927) 年～平成 22 (2010) 年

現在の国見町竹田津出身の陶芸家。土器の写真を見て感動し、裏山で土を採って土器を作ったり、宇佐中学校(現、宇佐高校)で窯を作ったりしました。戦後は陶芸の地・有田で弟子入りし、その後、陶芸家として活躍。数々の賞を受賞しています。



「望郷」

大分県立美術館収蔵品



「円象」

大分県立美術館収蔵品

- ①-1
- ①-2
- ①-3
- ②-1
- ②-2
- ②-3
- ③-1
- ③-2
- ③-3
- ③-4
- ④-1
- ④-2
- ⑤-1
- ⑤-2
- ⑤-3
- ⑤-4
- ⑥-1
- ⑥-2

国東で活動している芸術家・工芸作家

くにさきしないほかに他にもたくさんのおいじゅつかがあるよ。しらべてみよう！



いわきり ちか 岩切 千佳 七島イ工芸作家



いわきり ちか 岩切 千佳さん

ひろおか しげき 廣岡 茂樹 画家



しげき さくひん 茂樹さん作品



ひろおか しげき 廣岡 茂樹さん

ひろおか えな 廣岡 衣奈 グラフィックデザイナー



えな 衣奈さんデザイン



ひろおか えな 廣岡 衣奈さん

かきの かつし 垣野 勝司 陶芸作家



かきの かつし 垣野 勝司さん

ふくなが やすのぶ 福永 泰信 陶芸作家



ふくなが やすのぶ 福永 泰信さん

つねなり てつさぶろう 恒成 哲三郎 家具木工作家



つねなり てつさぶろう 恒成 哲三郎さん

やまぐち まさふみ 山口 正文 美術作家



やまぐち まさふみ 山口 正文さん

なかの しゅうさく 中野 マーク 周作 陶器造形作家
なかの なおみ 中野 直美 陶芸作家
なかの しんや 中野 伸哉 イラストレーター



しゅうさく さくひん マーク周作さん作品



なおみ しゅうさく 直美さん、マーク周作さん



なおみ さくひん 直美さん作品



しんや さくひん 伸哉さん

わだ このみ 和田 木乃実 表具作家



わだ このみ 和田 木乃実さん